

瀬川 峰雄 様 (エコリーダーコース平成22年修了)

メッセージ -----

◎受講してよかったこと

(高卒のみの私には、大学) 教授に教えていただくことが楽しかった
発表ツール (パワーポイント) の使い方を学ぶことができた

◎受講によって自分のなかで変わったこと

環境及びエネルギー関連の見識が深まり、特に東日本大震災後の自分の行動に役立った
(上下水道・ごみ焼却施設、青森・岩手の県境の不法投棄産廃処理場等を直接見学できた
ことで、被災地に行きなんとかしたい、そして、住んでいる地域をなんとかしたいとの気持
ちが強くなった)

◎受講後、取り組んだこと

1) 地元誌「紫波新聞」への環境コラム 300~500 文字程度の投稿を毎月行っている

※毎月発行の町民各戸無料配布新聞のスポンサー関係者でいたことで可能だった

2) 毎日の我が家ごみ分別をし、集積所への持込み担当をしている

※料理、洗濯まったくできな

3) CO₂ニュートラルに取り組んでいる (SDGs の⑦エネルギークリーン)

※町内でんぷら廃油を (以前より、家庭分は回収団体が当社に持ち込みするシステムが町
にあり、町内業者からは) ほぼ回収し、精製リサイクルにて軽油の代替燃料 (BDF) 製
造をしてディーゼル自家用車、仕事 (バキューム) 車、トラクターに使用している。

◎現在、取り組んでいること

仕事を通じて「SDGs」に取り組もうとしています。

民間会社であっても当社のような業種の場合、社会的弱者を見ないフリが出来ない「公な
企業」だと確信しています。民間会社は利益、効率的、合理化が第一優先となり、ある意
味、社会的弱者など見ないふりしても法的に何も問題ないし、それは行政が考えること
とするのが今までの一般的な考え方があると思います。しかし、今後は「SDGs」的な
見方で民間会社は「企業は公だ！」との考え方になり、自社の利益を社会に還元する必要
性が、ますます求められるような社会になってきていると感じます。

「SDGs」の17目標のうち①貧困、③健康と福祉、⑥水とトイレをキーにして、当社
本業 (汲取り業) を通じて見える顧客 (一般家庭) は比較的、貧困家庭が多いと考えられ
非衛生な非水洗トイレも多くあります。その様に一般の方々からは見過ごされる、地域の
課題を解決することが当社だから出来ることと思っています。また、汲取り宅は独居老人
宅の率も高く、今後ますます認知症などの率も高くなっていくとも思っています。そのよ
うな地域課題も本業を通じての声がけなどで、そのような独居老人宅の健康などが、少し

でも維持の一助できればと思っています。(社会保障費の削減に繋がる)

具体的には、そのような家庭では本当にトイレ水洗化ができないか?を検証することより始めます。数年間その家庭の汲取りにかかわる費用の推移をみて、どれくらいの金額(補助)を出せば水洗化ができるのか?を具体的数値化して、該当家庭、役所の該当担当に提示して同じテーブルで考えることからスタートします。

そして、最初は該当業者として当社の付加価値(利益)でどこまで補助かボランティアが出来るかも一緒に考えます。その際の費用は必ず「見える化・ガラス張り」にし、「一事業者だけで地域課題を解決することはできるはずがありません!」と言うように問題提起していくようにして行きます。

そのように、「SDGs」17目標のうちの⑩不平等をなくし、⑪住み続けられるまちづくりをするにはと一緒に⑰パートナーシップで考えるようにしてゆくことが最も大事なことだと思って行動して行きます。

「SDGs」はカラフルな「アイコン」で視覚的に分かりやすくなっています。カードゲームもあり、社会・環境・経済のバランスが良くないと持続可能な開発展開ができなくなると、直感的にわかるようにもなっているようですので、カードゲームからスタートしてゆくことも大事だと思っています。(仲間に「SDGs」カードゲームのファシリテーターがいます)
